
2017年度 第7回
郵博 特別切手コレクション展
第1回いずみ展

展示作品解説パンフレット



主催

郵政博物館、特定非営利活動法人郵趣振興協会

展示団体

いずみ切手研究会

後援

無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社

開催日時

2018年2月3日(土) 10:00-17:30

2018年2月4日(日) 10:00-17:30

会場：郵政博物館

切手コレクションの観覧順序

展覧会に展示される切手コレクションは、「展示リーフ」という用紙に整理されて展示されています。この「展示リーフ」は16枚ごとにパネルに収められ、各パネルで以下の順で展示されています。

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12
13	14	15	16

したがって、各パネルにおいては、展示リーフは、上段から、左から右へと、ご覧ください。

なお、切手コレクションの整理方法には様々なやり方がありますが、この展示方法は、分かりやすさ・コストなどの点で現在最も普及している方法で、日本だけでなく、欧米、アジア、オセアニア、アフリカの各国でも同様の方法が採用されています。

作品をご覧になられてのご質問や切手収集に関するご質問については、場内におります主催者・展示者にどうぞお声がけください。

多摩の郵便印 (2)

近辻 喜一

第1フレームは、THAILAND 2016 に出品した Postal Markings of TOKYO Tama County 1872-1909 から、現存半ダース以下と思われるエンタイヤを抜粋して展示する。注目アイテムは、現存1点の布田駅郵便扱所印つき手彫2銭封皮、持込み使用の青梅不統一印つき紅梓1銭はがき、現存2点の下布田記番印つき小型1銭はがき、現存2点の中藤KG印つき小判2銭封皮。

第2フレームは、全日本切手展2012の出品物「多摩の櫛型印(1906-1951)」より第5フレーム「多摩の無集配局」を展示する。無集配局では速達あるいは書留扱いの郵便物に限って消印するため、マーケットにはあまり出回らない。

電力会社のエコーはがき (2)

佐々木 修一

エコーはがきは、通常のはがきより5円安く売られたいへん人気があり、一頃はビッグブームになったこともある。

大手電力会社では、沖縄電力を除く9社からエコーはがきが発行されており、その総数は104種に達している。この丁度半分の52種は北海道電力が発行したもので、内49種は同社の泊原発の「マスコット」とまりん」を題材としており、1989年から2000年までの足掛け12年にわたって発行されたロングシリーズである。

今回は、とまりんシリーズ全49種と、東京電力・北陸電力・中部電力・関西電力・中国電力・九州電力の原子力関連のエコーはがきを展示する。

大日本帝国海軍 大東亜戦争参加艦艇 乗組員の手紙 (2) 赤須 秋王

大東亜戦争(1941-1945)開戦時における我が海軍の保有艦艇は約230隻(補助艦艇を除く)、参加軍人は約289万人(うち戦死約47万人)とされています。

戦艦、空母等の大艦艇には、相応の多数の軍人等が乗艦しており、当然差し出された郵便物も多くなりますが、駆逐艦、潜水艦等の小規模艦艇は定員が100名を下回ることもあり、郵便物も当然少なくなります。

今回は、入手できた開戦時保有艦艇の乗組員の郵便物のうち、知名度、エピソードのある艦艇を選び、その諸元、戦歴とともに整理し、加えて著名な軍人の郵便物も含めて展示します。

手彫封皮 (2) 石川 勝己

手彫封皮は、明治6年12月に発行された。布告や駅逋寮の受渡簿などの資料を見ても、はがきと封皮はセットで扱うべきものであるが、リーフ数の関係もあるので、今回は封皮だけを展示します。

手彫封皮の版数はほぼ確定していますので、特徴のある版を選択しています。また使用例も、封皮の代表的な使用例と消印など楽しめるものを選びました。

第2次昭和切手の使用例 (2) 市川 勉

第2次昭和切手は、昭和17年4月1日の郵便料金改定を契機に発行が始まり、昭和20年5月にかけて発行された。

この第2次昭和切手シリーズ(乃木2銭を除く)の代表的な使用例を発行順に展示しました。

第1次動植物国宝切手(2)

柿原 康人

この切手シリーズの名称をどうするか議論の末に、上記の名称に落ちついたが、植物そのものの切手は一枚もないという、全くまとまりのないシリーズである。

製造面からは、普通切手として初めてのグラビア印刷、用紙は透かしなし、糊はデキストリン系からアラビアゴム系へ。第2次以降との大きな違いは、銭単位00つきの額面になっていること。製造現場での品質管理も悪く、目打のセンターの悪いものが多い。

今回は、額面別に未使用・使用済・カバーを並べてみました。

欧文日付印(2)

片山 七三雄

日本の欧文印は、明治中期から昭和20年代後半までの大きな流れとして、小型20ミリ印、中型年号4字印、二重丸型MEIJI印、中型年号2字印、楕型印、三日月印と移ってゆき、途中で欧文ローラー印と欧文機械印が加わる。

今回の展示では、この消印のタイプの基本的な流れと、同一タイプ内での表示、材質、印色、大きさなどの様々なバラエティを中心に分類し、欧文日付印の約70年にわたる歴史を示す。

臨時郵便取締令 (2)

加藤 純

「臨時郵便取締令」は、昭和16年10月に「勅令」として公布施行され、一般郵便に対する「検閲」が合法化されました。そして、昭和20年8月の終戦により、この勅令は終了することになりましたが、「検閲」という特殊事情から、この制度に関する有力な資料は見当たらず、戦後72年が経過した今日においても詳細が解明されていません。

今回の展示では、検閲された封書・はがき等から、(1) 検閲に使用された封緘紙・検閲印、(2) 検閲印の番号から検閲が行われた地域、(3) 検閲された内容を示し、どのような検閲が行われたのか、また、法令・逓信官吏練習所・新聞等の資料から、当時の時代背景を含め、郵便制度の中で実施された検閲の実態が感じられるようにまとめてみました。

飛脚便から郵便へ (野口家書簡を中心にして) (2)

篠田 日出雄

いまから60年ほど前、信州松本の旧家から行李一杯のエンタイヤが蔵出しされた。その宛て先は、なんと私の祖母の祖父にあたる野口庄三郎だった。ボツボツと市場に出回ったものを買って求め、今では270余通にのぼる。

野口庄三郎は、江戸時代後期の材木商で、代々信濃屋庄三郎を名乗る。天保15年(1844)に江戸城本丸御殿が焼失したため、庄三郎は木曾山中に入り、飛騨・三河・遠江・駿河を調査し、数千の人夫を使役して用材を切り出して、幕府に納入した。その功により、庄三郎は幕府御用達の材木商となる。

本作品の見どころは、安政2年(1855)の三度飛脚によって運ばれた飛脚便、禁止直前の明治6年3月の飛脚便、明治6年9月の東京N1B1カバー、明治8年1月のイ壺番カバー、同年6月の東京ツブレ印カバー、明治9年6月の東京白抜十字印カバー。

府県名カタカナ表示 右書ローラー印 (2)**菅沼 良隆**

ローラー印は、明治43年(1910)に蚕種等、金属製の日付印では押印時に破損するおそれのある郵便物に、コルク製のローラーで消印したことが始まりです。その時、シナノ(信濃)、ミノ(美濃)等、当時の旧国名をカタカナで局名の上に冠したローラー印も出現しました。これらは大正5年まで継続され、翌6年から北海道の国名(支庁名)を除いて県名での表示となりました。

昭和19年になると、戦争によるゴム物資の不足により、ローラー印はほとんど新しく調整されませんでした。昭和23年までは、局内に残った年度が過ぎたローラー印の年号部を改造して使用した例が見られます。また、昭和24年には、左書表示の告示が出される以前に作成されたと思われる右書のものが存在します。昭和25年以降は、左書になりました。

今回の展示では、この期間の印影をなるべく年度順に、都道府県ごと、もしくは地域ごとに並べて、その変化を表現してみました。)

東京都内駅前局のMS等のコラボレーション (2)**竹之内 康雄**

東京都内の駅前局は、現在115局あります。23区内に74局、都下に41局です。駅前局の多い区は、世田谷区14局、大田区5局で、文京区のみ0局です。都下のうち、多い市は八王子市の7局、東村山市の4局です。

この作品は、駅前局のMS(メータースタンプ)、乗車券、郵便貯金の局名印等をコラボレーションしたもので、空白部分は現在未集です。

有名人の年賀状 (2)

登坂 宏

漫画、音楽、芸能、文学、絵画、文学・書のジャンルで活躍した人たちの年賀状オンパレード。知っている人いますか。タイムスリップして往時を思い出してください。ジャンル別に展示します。

展示の一部を紹介：手塚治虫、ちばてつや。坂本九、なかにし礼。エノケン、ロッパ、森繁久弥、仲代達也。川端康成、池波正太郎、サトウハチロー、高浜虚子、与謝野晶子。平山郁夫、棟方志功、絹谷幸二等々です。

年賀状の形態は、縦あり、横あり、印刷もの、添え書きもの、絵入り、写真入り等々と様々です。来年の年賀状を作るヒントも見つかるでしょう。

旧小判切手高額 (1)

長野 行洋

日本初の近代凸版印刷により発行された小判切手は、明治9年から15年に発行された「旧小判」17種と明治16年に発行された「U小判」3種、明治21年に発行された「新小判」10種の計30種に大別される。

前期「旧小判」のうち、特に12銭以上の高額面6種は、最高額面の50銭以外は、当時まだ外国郵便の利用も珍しく、発行枚数が少なく、収集を始めた子供の頃は、小判切手の専集を志したものの、入手をあきらめざるを得なかった。

それでも15銭、20銭は電信用として大量に使われたが、逆に郵便使用だけでリーフを作るのは一苦勞である。12銭・30銭カバーは未入手、スカスカのリーフを各額面2リーフ以上とした、サラリーマンの小判切手収集40数年の精一杯の駄作を、ご笑覧いただければ幸いです。

年賀はがきの特殊使用例 (2)

中瀬古 誠

昭和25年用年賀はがきの発行当初から、年賀はがきの速達使用例や外信使用例などの特殊使用例が見られます。また、昭和27年の年賀および昭和28年から昭和41年までの年賀はがきは通常のはがき料金より安く、昭和27年は通常はがき料金が5円に対して年賀はがき料金は2円、および昭和28年～昭和41年の間は、年賀はがき料金は通常はがき料金が5円に対して4円で、4円時期は年賀特別料金と呼ばれています。とくにこの時期の前年使用や速達などの特殊使用例が面白くて、集めています。

櫛型日付印 (2)

野口 喜義

櫛型日付印は、明治39年から使われた。その後、明治42年の告示1386号で型式が定められ、それが戦後そして昭和61年までの基本型式となった。

この作品は、80年にわたって使われた櫛型日付印の前期(明治・大正)部分について、主に時刻表示の変化に着目してまとめたものです。

全体の構成は、No.1-4 一等局の変化例(丸二型から櫛型へ)、No.5-8 二等局の変化例(丸一型から櫛型へ)、No.9-12 三等局の変化例(丸一型から櫛型へ)、No.13-14 三等局の変則的な使用例(エラー印)、No.15-16 三等局の使用例(局名改称)、No.17-20 早発X型使用例(規定より早い使用)、No.21-24 櫛型・丸二型混用例、No.25-28 X型からY型への変化例、No.29-31 遅発Y型使用例(規定より遅い使用)、No.32 早発Y型使用例(規定より早い使用)。

注目アイテムは、No.4 朱色日付印：青森、No.31 遅発Y型使用例：局種別構成比、No.32 早発Y型使用例。

郵便で知る震災史 (2)

本池 悟

日本は世界でも有数な地震国である。いつでも、どこでも地震が発生する地勢であると言われている。この作品は、明治24年の濃尾地震から昭和35年のチリ沖地震までの中から、特徴のあるものを選んで構成した。たとえば、濃尾地震は活断層の役割を知ることになった。関東大震災は火災の恐ろしさを教えてくれたが、一方で、世界の注目を浴び、人類愛により救援しあうことにもなった。北伊豆地震では、前兆に対して外来者が疎開した。民間航空機による郵便物の輸送もおこなわれたが、郵便物に表示がないため、収集しにくい。昭和三陸津波地震は、当地の人たちの多くが戦争に駆り出されており、軍事郵便による問い合わせが多い。チリ沖地震は、就寝中に津波が来たために寝具とともに浮き上がるという事態になって、人々を驚かせた。

知多半島の郵便史 (2)

安井 浩司

愛知県の知多半島は名古屋南部に位置し、温暖な気候に恵まれています。三方を海に囲まれているにもかかわらず、降雨量が少ないため、農業には適していません。江戸時代には、日本六古窯の一つである常滑焼、ミツカン酢に代表される醸造業や知多木綿で知られた織物業が盛んになりました。また、尾州廻船として中国・四国地方から江戸までの海運業も発達しました。遠隔地との情報交換のため飛脚便も多く残されています。

明治5年に横須賀と亀崎が、7年には東端と大野が開局し、記番印が使われました。9年には半田、河和、師崎、小鈴谷、常滑が開局し、知多半島の郵便網が完成します。さらに、東京大阪間の鉄道建設のため、建築資材の運搬線として19年3月には武豊―熱田間が開業し、鉄郵印が使われました。

今回は、この知多半島の郵便の発達をエンタイヤで振り返ります。

時刻表示の廃止 (2)

山田 克興

太平洋戦争も開戦後1年あまり、戦時体制は郵便にも影響を与え始めた。今回の「時刻表示の廃止」もその一つであろう。物資は必ずしも潤沢では無かった。時刻表示を廃止し代わりに三つ星や都道府県名にしたところで、たいした違いがあるわけでもない。それよりも、時間活字の製作や更埴の手間、局員の招集による人材不足という点が問題となったのだろう。消印から時刻が無くなるのは、国内では昭和18年2月であるが、試行として外地では、まず朝鮮が15年5月23日から、樺太は15年9月1日から、関東州が15年12月1日から、台湾は国内より遅かった。また、北海道の一部で17年7月16日、そして北海道全土では8月1日から始まった。櫛型印は時刻の代わりに暫定的に★★★、やがて都道府県名に、機械印は単に時刻欄が空欄になっただけである。

15円菊切手帳 (2)

和田 輝洋

昭和42年2月1日、郵便料金の改定により第1種定形郵便物の料金が15円に値上げされた。このため、同年6月1日から60円・90円・100円の切手帳が販売された。

42年7月1日、郵便物処理の自動化のため、料額部分が白抜ききの15に変更され、翌43年3月1日から90円・100円の新切手帳が販売された。また、43年12月16日、窓口用に薄手表紙の100円切手帳が発売された。45年2月2日、郵便番号のPRのため、表紙図案の変更と内表紙に郵便料金表の印刷が行われた。なお、その後の郵便料金の変更で新料金を加刷したものもある。

これらの菊切手帳を、試作・エラー等を交えて展示します。

鉄道郵便印 (2)

渡会 一裕

路線別に鉄道郵便印を収集して40年以上が過ぎました。今回は、珍しい使用例を単片中心にまとめてみました。

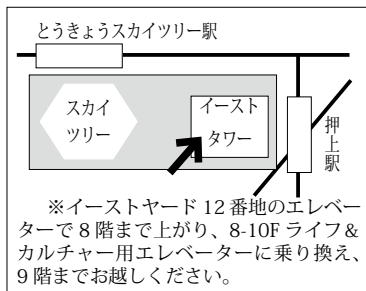
郵博 特別切手コレクション展

1902年(明治35年)に開館した「郵便博物館」に
その起源を遡る「郵政博物館」で開催される特別展です

2017年度に開催予定の特別切手コレクション展一覧

開催期間	特別展名
4/21-23	郵便制度史展 2017 ポスタル・ヒストリーのメイン・ストリームを織りなすコレクションの数々
5/13-14	沖縄本土復帰 45 年記念展 戦後 1972 年まで沖縄で独自に発行された「沖縄切手」コレクションが大集結
6/3-4	昭和切手発行 80 周年記念展 「昭和」の最高峰コレクションが揃い踏み
10/7-9	日本の記念特殊切手コレクション展 記念特殊切手の製造・発行・使用面を研究するグループの結成 10 周年記念特別展示
11/11-12	「心をつないだ年賀郵便の歩み ―そして未来へ」展 送り手の真心と郵政マンの努力の結晶「年賀郵便」の歴史を紐解く
12/9-10	第 5 回ヨーロッパ切手展 ヨーロッパ切手の本格コレクションが勢揃い
2018 年 2/3-4	第 1 回いずみ展 わが国郵趣グループのトップ・ランナーの実力がここに明かされる
2018 年 3/3-4	安藤源成コレクション展 フィラテリー 70 余年の軌跡と名品の数々を含む円熟コレクションを一堂に

特別切手コレクション展の開催時間は原則として午前 10 時～午後 5 時半ですが、初日だけ 12 時開始になる事が多いので、ホームページでご確認の上、お越しく下さい。



郵政博物館への行き方

所在地 東京スカイツリータウン・ソラマチ 9 階
※イーストヤード 12 番地のエレベーターで 8 階まで上がり、8-10F ラーフ&カルチャー用エレベーターに乗り換え、9 階までお越しく下さい。

最寄駅 押上駅(東京メトロ半蔵門線、都営浅草線、東武スカイツリーライン、京成押上線)、とうきょうスカイツリー駅(東武スカイツリーライン)両駅から直結。